谷戸の風 ⑦⓪

時の流れ

山内静夫

自分のことを書くようで誠に気が引けますが、去る六月十五日、鎌倉同人会の仲間の方々の並々ならぬ御協力を頂き出版記念会を開いて頂きまして、さと嬉しさに何度も胸をつまらせました。

映画監督の篠田正浩くんとは何本も仕事上のおつき合いもあったが、それよりも彼がまだ監督になるかどうかの若い頃、地元、鎌倉のおでんやで夜毎安酒をくらっていた日々のことが鮮烈に頭に浮かんできた。当時の松竹にあって時代の先端を行くひとりであった彼と大船調の映画づくりのド真ン中に埋れていた私とは同じ会社にいながら顔を合わせることもなく時が流れていたのだろう。

出版記念会の席でその彼と会った。じっと顔をみるだけで涙が溢れた。これだけで今日はよかったと思った。お互いに年をとったなと思っていた。あたり前のことだ。だからいいのだ、変わってなければ化けものだ。お互いに流れていった時間に意味があるのだ。年は私よりいくつか下であるけど、そんなことほどうでもよい。生きてきたことに意味があるのだ。当日は一三〇人位の人が見えた。私は松竹を退社後、地元のケーブルテレビで働き更に鎌倉文学館、と違う分野で働いたのでそれだけ広い範囲で多くの方々と知り合った。生涯の宝である。

木版画　藤本宿

豊漁と無病息災祈念
葉山で「潮神楽」

葉山町の無形民俗文化財に指定されている「潮神楽（しおかぐら）」が6月16日に森戸神社で奉納された＝写真。5年毎の大祭にあたる今年は乙姫様に扮した3人の女児が船で名島へ渡る「竜宮参り」が予定されていたが、強風のため海岸から供物を捧げた。

行事を主催する葉山町漁業協同組合のほか、氏子やマリンレジャー関係者による「海上安全・大漁満足祈念祭」に続き、例年は屋外で奉納される神楽も今回は風を避け、社殿内に一般参拝者を招き入れて執り行われた。

京都の岩清水八幡宮から鎌倉の鶴岡八幡宮に伝わる神楽を8百年前と変わらぬ形で継承する「藤沢湯立神楽保存会」の神職らが8座を披露。

見どころとなる後段の「笹舞（ささまい）」では、煮えたぎる湯釜に浸した青笹で参拝者に湯玉を振りかけて無病息災を祈願。赤面と黒面の神が舞いながら笑いを誘う8座目の「剣舞（けんまい）もどき」では神楽の終わりの「舘まき」が恒例で、参拝者らはご利益の舘を求めて手を伸ばした。

この行事は、熊野地方から移住してきた漁師らが、江戸時代の中頃から始めたと言われ、大正時代に一度だけ中止した年が大シケとなり被害が甚大だったことから、それ以降は毎年欠かさず続けられている。（K）

モース博士を顕彰
江の島モース祭

「江の島モース祭」の碑前祭が6月1日、江の島北緑地のモース記念碑前で行われ、主催のモース研究会会員、大森貝塚保存会、藤沢市教育委員会、藤沢市観光協会の関係者ら約60人が参加した＝写真。

エドワード・S・モース（1838年～1925）はアメリカの動物学者で、ダーウィンの進化論を実証し、江の島に東洋発の臨海実験所をつくった。大森貝塚の発見者としても知られている。

モース研究会は、モース来日100周年を記念し1978年に設立。モースを学び、文化の向上と国際親善に寄与する。

碑前祭で、同会名誉会長の廣崎芳次さんが「日本の博物館の発展に寄与したモース博士の遺徳を称えるために毎年モース祭をしている」と挨拶。平岩多恵子教育長からモースは江の島、藤沢と関わりが深いことなどの話があり、園児2人による献花式が行われた。

そのあと、参加者はモース臨海実験所跡碑を見学。講演会もあり、湘南考古学同好会の寺田兼方会長が「江の島の遺跡とモース」の題で、モースの生涯、日本での功績などを解説した。会員が制作したデジタル紙芝居「モース物語」の放映には鈴木恒夫藤沢市長も参加して映像を楽しんだ。

同会では「モースの功績を広く啓蒙していきたい」とホームページも開設。会員募集中☎0466・26・3028

文学つれづれ ⑰④

吉川英治『宮本武蔵』（一）

赤羽根龍夫

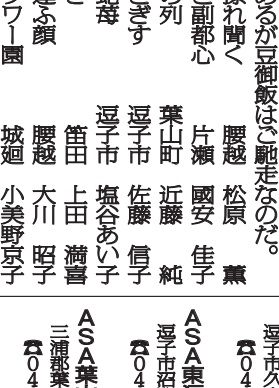
日本最大の国民文学は琵琶法師の語りによって全国津々に広がった『平家物語』といえる。それでは近代の国民文学は何だろうか。国民作家という言い方をする場合、夏目漱石と森鴎外がそう言われている。しかし『こころ』や『舞姫』は国民文学とは言わない。

国民文学と言われるのは何といっても吉川英治の『宮本武蔵』であろう。朝日新聞に昭和10年8月から14年7月にかけ連載され、大ヒット作となり、単行本も今日まで何度も版を重ね映画やテレビにも何度も取りあげられている。外国でも宮本武蔵が書いた『五輪書』は広く読まれている。

宮本武蔵はもはや国民現象となっており、昭和39年には桑原武夫を中心とした大衆文化グループが読者へのアンケート調査をもとに『宮本武蔵』と日本人』をまとめ、物語の底流を流れる「もののあはれ」「骨肉の愛」などの日本人の最も好む心情を論じて日本人論を展開している。

多くの文学者が様々な武蔵論を書いている中で、私は若き日の武蔵が創流した円明流の継承者として、実際の武蔵の実像を交えて吉川英治の宮本武蔵の魅力に迫ってみたい。まずは先入観なしに冒頭から読み出そう。

武蔵は天下分け目の関ケ原の激戦が終わった直後、敗れた三成方の敗残の兵として多くの死体に交じって横たわっていた。―どうなるものか、この天地の大きな動きが。もう人間の個々の振などは、秋かぜの中の一片の木の葉でしかない。なるようになってしまえ。武蔵は、そう思った。



講談社刊

突然武蔵の耳に、あちらこちらに散乱する死体の中から「武やん、生きているか」と声が聞こえた。武ぞうはその声に応じて「生きていると武蔵と又八は戦場で会った、散乱する死体から鎧や太刀をはぎ取ることを裏の生業（なりわい）とするお甲・朱美母子の家に匿われ、情熱を覚える。

も、死んでたまるか」と答えを返した。それは槍一本かついだきりで村を飛び出し若い功名心に燃えあいながら、この戦場に来て共に戦った武蔵と又八であった。

襲ってきた夜盗の群れを殴り殺して母娘を救う。その後すぐに又八はお甲の誘惑に負け母娘と姿をくらまし、武蔵は一人、又八が生きていることを又八の老母・お杉婆と又八の許婚・お通に知らせるため故郷の村に戻る。

関ケ原の残党として役人や村人に追われた武蔵は大暴れして山に逃げ込んだ。お通の笛の音に引き寄せられた武蔵を捕まえたのは禅僧沢庵であった。一本杉に釣り下げられてわめき散らす武蔵の荒ぶる姿にお通は怪しい

一方、沢庵は説教する。たとえば、おぬしの勇気もそうだ、今日までの振る舞いは、無知から来ている生命知らずの蛮勇だ。人間の勇気ではない。…おぬしは生まれながらの腕力と剛気はあるが、学問がない。…文武両道というが、二道とは、ふた道と読むのではない。ふたつを備えて、一つだよ。―わかるか、武蔵

沢庵に生命の尊さに気づかされた武蔵はお通に助けられ一緒に逃げようとするが沢庵に再び捉えられ、三年の間、姫路城の天守閣に幽閉される。そこで万巻の書物を読んで「人間」に目覚め、姫路城主・池田輝政の仕官の誘いを断って、「流浪が望みでございます」という。旅立ちに際し、武蔵は腰の剣に手をやって、これに生きよう！これを魂と見て、常に磨き、どこまで自分を人間として高めうるかやってみよう！沢庵は、禅で行っている。自分は、剣を道とし、彼の上にまで超えねばならぬ。

そして「青春、二十一、遅くはない」とつぶやく。

（神奈川歯科大名誉教授）

鎌倉朝日歌壇

香山　静子　選

私の名「志村喬」のタカシです令和の窓口反応鈍し　片瀬　中村　喬

時代の差を見せ付けられた作者の感慨。

緑濃き丘に佇む洋館の調れは知らず五月雨の降る　大船　小笹岐美子

あまりにも素晴しい景に敢えて「佇む」としたのか。

腰落としソーラン節を踊る児の背のひと文字「光」が跳ねる　葉山町　近藤美知子

「光」が跳ねるという把握が優れている。

収穫の初なすび手になでてみるつやつやかな紺キュッと夏の音　逗子市　湊　美根子

包まれて包まれて育つ唐黍の美しき実を賞でつついただく　藤沢市　三浦　和子

拵ぐ人もなき枇杷の実に鳥来てわがもの顔に喰ひ散らかしぬ　今泉台　下田　和夫

段葛をつくりし頼朝の優しさを胸にかみしめゆっくり歩く　城廻　塩田　文子

洗濯の竿残したる引っ越しの隣家の庭に茅は茂れる　葉山町　近藤　純

旅ゆけば鷹鳩に化す信濃路のあんずの郷の風に酔ひたり　辻堂　柳　蒼柳

帰り来て窓に映れるマンションの向かいの明かりにわれも灯さる　藤沢市　青木寿美子

初夏の夜鍋に独りわが夫は七時間かけて辣韮剝きたり　材木座　有野裕美子

鎌倉朝日俳壇

星野　高士　選

〈天元号の四つ目夫の夕端居　植木　風見　玲子

元号四つ目とは大変におめでたい一句。

〈地〉人通るたびに崩れて薔薇の花　鵠沼桜が岡　一色千穂子

薔薇の花の華麗さともろさを客観的にうまく詠めた。

〈人〉むくむくと湧き出づる白雲の峰　手広　高口　道宏

いかにも雲の峰の育って行く臨場感が伝わってきた。

見るからに重さう雨の濃紫陽花　金沢区　岩澤　正春

十七音によくこれだけのことを埋めこめた。

親竹を追い越し天へ今年竹　城廻　増田　重雄

今年竹の勢いを「天へ」で加速をつけた一句。

老夫婦茶づけ代わりや豆御飯　岡本　森田　孝

つましやかな内容であるが豆御飯はご馳走なのだ。

緑さす一人ベンチの葉擦れ聞く　腰越　松原　薫

ハンカチの木の花ひらと副都心　片瀬　國安　佳子

山鉾に神宿るなり稚児の列　葉山町　近藤　純

里山の静寂気迫のほとぎす　逗子市　佐藤　信子

細流のこゑの洩れくる蛇苺　逗子市　塩谷あい子

起し絵の男と女違う向き　笛田　上田　満喜

薔薇咲いて一輪すつが違ふ顔　腰越　大川　昭子

母の日の花見当らずフラワー園　城廻　小美野京子

神官の沓音高く夏祓　大船　添田　洋子

枇杷の実のたわわになりて蔀去らず　城廻　塩田　文子

昼顔や浜辺に並ぶ子らの靴　材木座　有野　冬花

令和初昭和の集い風薫る　腰越　小河　哲美

空の旅蜥蜴一匹迎へくれ　七里ガ浜　山本美恵子

江ノ島を遠くに見せて卯波かな　材木座　羽賀　一男

鎌倉朝日 発刊協力グループ
朝日新聞 サービスアンカー

ASA鎌倉小町
材木座一―一〇―三七―一〇三
☎22―3236

ASA鎌倉中央
長谷一―一―九
☎22―1004

ASA北鎌倉
大船二―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA鎌倉深沢
常盤二四七―二
☎31―1444

ASA大船西部
玉縄一―一四―一
☎46―6068

ASA大船南部
大船二―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA大船中央
大船二―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA腰越
藤沢市鵠沼藤が谷二―一―二三
☎0466―27―8716

ASA藤沢南部
藤沢市鵠沼藤が谷二―一―二三
☎0466―27―8716

ASA藤沢東部
藤沢市弥勒寺三―二二―一一
☎0466―22―7409

ASA湘南鵠沼
藤沢市鵠沼海岸二―一―一一
☎0466―34―6924

ASA逗子
逗子市久木一―一―一一
☎046―871―2368

ASA東逗子
逗子市沼間一―一四―四
☎046―871―6845

ASA葉山
三浦郡葉山町堀内一八〇八
☎046―875―0515

ASA金沢八景
横浜市金沢区六浦一―二一―一三
☎045―782―2859

ASA大船北部
横浜市栄区笠間四―二―九
☎045―891―0986